

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品の名称 : アルファフォーム 310X (型式番号: 泡第30～2号)

会社名 : ヤマトプロテック株式会社

住所 : 〒108-0071 東京都港区白金台5-17-2

電話番号 : 0570-080100 (ナビダイヤル)

担当部門 : テクニカルサポート室

推奨用途及び使用上の制限 : 消火薬剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類区分

下記に記載が無い項目は、「区分に該当しない」、「分類できない」

健康に対する有害性

皮膚腐食性／刺激性 : 区分3

眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 : 区分2

皮膚感作性 : 区分1

生殖毒性 : 区分1B

特定標的臓器・全身毒性(単回暴露): 区分1 (呼吸器・心臓・腎臓・中枢神経系)

区分3 (麻酔作用)

特定標的臓器・全身毒性(反復暴露): 区分1 (呼吸器・心臓・中枢神経系)

絵表示又はシンボル:



注意喚起語 : 危険

本SDS記載の内容は我々が知り得た最新の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや危険性、有害性等の記載内容に関してはいかなる保証をなすものではありません。ご使用に際しては国、地域、機関等の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先して下さい。



危険有害性情報

軽度の皮膚刺激

強い眼刺激

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

生殖能または胎児への悪影響のおそれ

眠気またはめまいのおそれ

中枢神経系、呼吸器、腎臓、心臓の障害

長期にわたるまたは反復暴露による中枢神経系、呼吸器、心臓の障害

注意書き

安全対策

全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

環境への放出を避けること。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

応急措置

飲み込んだ場合

気分が悪いときは、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

皮膚刺激または発疹が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること

暴露または暴露の懸念がある場合

医師の診断/手当てを受けること。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

保管

多湿を避け、使用温度範囲内に保ち屋内に(可能なら)施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託し、廃棄すること。

本SDS記載の内容は我々が知り得た最新の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや危険性、有害性等の記載内容に関してはいかなる保証をなすものではありません。ご使用に際しては国、地域、機関等の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先して下さい。



3. 組成及び成分情報

単一物質・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名 : 泡消火薬剤(水成膜泡消火薬剤)

化学名又は一般名	CAS番号	官報公示整理番号	濃度又は濃度範囲
ジエチレングリコール モノブチルエーテル	112-34-5	(2)-422	10～20%
エチレングリコール	107-21-1	(2)-230	10～20%
炭化水素系界面活性剤	あり	あり	5～15%
フッ素系界面活性剤	あり	あり	1～5%
アジピン酸	124-04-9	(2)-858	1～5%
トリエタノールアミン	102-71-6	(2)-308	1～5%

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石鹼で洗うこと。

皮膚刺激または発疹が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる

場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること

飲み込んだ場合

気分が悪いときは、医師に連絡すること。

暴露または暴露の懸念がある場合

医師の診断/手当てを受けること。

本SDS記載の内容は我々が知り得た最新の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや危険性、有害性等の記載内容に関してはいかなる保証をなすものではありません。ご使用に際しては国、地域、機関等の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先して下さい。



5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 不燃性につき、該当しない
使ってはならない消火剤	: 該当しない
火災時の特有の危険有害性	: 情報なし
特有の消火方法	: 該当しない
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	: 該当しない

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域とし隔離すること。

関係者以外の立ち入りを禁止すること。

作業者は適切な保護具（「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避けること。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用すること。

風上に留まること。

低地から離れること。

密閉された場所は換気すること。

環境に対する注意事項

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意すること。

収集物は産業廃棄物として処理すること。

封じ込め及び浄化の方法・機材

少量の場合は速やかに砂、おがくず等で掃き取るか、スコップ等ですくい取って密閉できる容器に回収すること。多量に流出した場合は盛土で囲って流出を防止して安全な場所に導いてから処理すること。

二次災害の防止策

漏えい物はすみやかに回収すること。

漏出した場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止すること。

万一、河川公共水路等に流れ込んだ場合は、直ちに地方自治体の公害担当者に報告すること。

本SDS記載の内容は我々が知り得た最新の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや危険性、有害性等の記載内容に関してはいかなる保証をなすものではありません。ご使用に際しては国、地域、機関等の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先して下さい。



7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用すること。
- 局所排気・全体換気 : 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なうこと。
- 安全取扱い注意事項 : 屋外又は換気のよい区域のみで使用すること。
接触、吸入または飲み込まないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

- 保管条件 : 多湿を避け、使用温度範囲内に保ち屋内に(可能なら)施錠して保管すること。
- 容器包装材料 : 製品容器、該当する消火設備
-

8. 暴露防止及び保護措置

- 設備対策 : 空気中の濃度を暴露限界以下に保つために排気用の換気を行うこと。
この製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
- 管理濃度 : 設定されていない。
- 許容濃度 : エチレングリコール
STEL C 100mg/m³, 上限値 (ACGIH)
ジエチレングリコールモノブチルエーテル
TLV-TWA: 10 ppm (67.5 mg/m³) (IFV)
- 設備対策 : 局所排気装置、洗眼器、安全シャワー
- 保護具
- 呼吸器の保護具 : 適切な呼吸保護具を着用すること。
- 手の保護具 : 適切な保護手袋を使用すること。
- 眼の保護具 : 適切な眼の保護具を着用すること。
- 皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣、保護面を使用すること。

本SDS記載の内容は我々が知り得た最新の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや危険性、有害性等の記載内容に関してはいかなる保証をなすものではありません。ご使用に際しては国、地域、機関等の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先して下さい。



9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 黄色透明
臭い	: 特有臭
融点/凝固点	: 情報なし
沸点、初留点及び沸騰範囲	: 情報なし
可燃性	: 該当しない
爆発下限界及び爆発上限界	: 該当しない
引火点	: 情報なし
自然発火点	: 情報なし
分解温度	: 情報なし
pH	: 7.8 (20℃)
動粘性率 (粘度)	: 4.2 cSt (20℃)
溶解度	: 水に易溶
n-オクタノール／水分配係数	: 情報なし
蒸気圧	: 情報なし
密度及び相対密度 (比重)	: 1.05 (20℃)
相対ガス密度	: 情報なし
粒子特性	: 該当しない

10. 安定性及び反応性

反応性	: 情報なし
化学的安定性	: 通常の取扱い条件下では安定
危険有害反応可能性	: 通常のと扱条件下では危険有害反応なし
避けるべき条件	: 情報なし
混触危険物質	: 情報なし
危険有害な分解生成物	: HF(フッ化水素)、F ₂ (フッ素ガス)、フルオロカーボンを生成する可能性がある。

本SDS記載の内容は我々が知り得た最新の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや危険性、有害性等の記載内容に関してはいかなる保証をなすものではありません。ご使用に際しては国、地域、機関等の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先して下さい。



11. 有害性情報

急性毒性	
経口	: 区分に該当しない
経皮	: 区分に該当しない
吸入：ガス	: 分類できない
: 蒸気	: 分類できない
: 粉じん及びミスト	: 分類できない
皮膚腐食性／刺激性	: 区分3
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 区分2
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 区分1
生殖細胞変異原性	: 分類できない
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 区分1B
特定標的臓器毒性（単回暴露）	: 区分1（呼吸器・心臓・腎臓・中枢神経系） 区分3（麻酔作用）
特定標的臓器毒性（反復暴露）	: 区分1（呼吸器・心臓・中枢神経系）
誤えん有害性	: 情報なし

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期（急性）	: 区分に該当しない
水生環境有害性 長期（慢性）	: 区分に該当しない
残留性・分解性	: 情報なし
生態蓄積性	: 情報なし
土壤中の移動性	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 分類できない
その他	
その他の環境有害性：BOD：1.6×10 ⁴ mg/L（3%水溶液）	計量方法 JIS K 0102 21
COD：8.3×10 ³ mg/L（3%水溶液）	計量方法 JIS K 0102 21

本SDS記載の内容は我々が知り得た最新の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや危険性、有害性等の記載内容に関してはいかなる保証をなすものではありません。ご使用に際しては国、地域、機関等の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先して下さい。



13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理すること。廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託すること。

汚染容器及び包装

関連法規並びに地方自治体の基準に従って、適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国連番号	：該当しない
品名	：該当しない
国連分類	：該当しない
容器等級	：該当しない
海洋汚染物質	：該当しない
国内規制	：陸上規制情報 消防法の規定に従う
	：航空規制情報 航空法の規定に従う
	：海上規制情報 船舶安全法の規定に従う

本SDS記載の内容は我々が知り得た最新の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや危険性、有害性等の記載内容に関してはいかなる保証をなすものではありません。ご使用に際しては国、地域、機関等の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先して下さい。



15. 適用法令

労働安全衛生法 : 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、
施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9）
エチレングリコール（政令番号75）
ジエチレングリコールモノブチルエーテル（政令番号224-3）
アジピン酸（政令番号10）
トリエタノールアミン（政令番号381）

化学物質排出把握管理促進法：該当しない
（PRTR法）

毒物及び劇物取締法 : 該当しない
消防法 : 危険物に該当しない
航空法 : 該当しない
船舶安全法 : 該当しない
水質汚濁防止法 : 該当しない
海洋汚染防止法 : 該当しない

16. その他の情報

すべての化学製品には未知の危険性や有害性があり得るという認識でご使用下さい。危険性や有害性も、使用時の環境、保管状態、保管期間によって異なります。ご使用時を含め、保管、廃棄に至るまで専門知識や経験のある方の指導の元で扱うことをおすすめします。

なお、記載の注意事項は通常的な取り扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いをする場合には状況に適した安全な条件設定を講じた上で、ご使用者各位の責任において使用して下さい。

本SDS記載の内容は我々が知り得た最新の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや危険性、有害性等の記載内容に関してはいかなる保証をなすものではありません。ご使用に際しては国、地域、機関等の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先して下さい。
